

八戸バイオマス発電株式会社 営業運転開始

～地元の林地未利用材で約27,000世帯分～

東日本旅客鉄道株式会社は、「グループ経営構想V(ファイブ)～限りなき前進～」において再生可能エネルギーの導入を積極的に推進しています。コンセプトワード「地域に生きる。」を実現すべく、環境にやさしいエネルギーの創出(CO₂削減)、地域への貢献(地域の活性化)に積極的に取り組んでおり、今回、当社で初めてとなる木質バイオマス発電所の営業運転を4月1日から開始しました。

東日本旅客鉄道株式会社(社長:深澤祐二、本社:東京都渋谷区)が共同で設立した八戸バイオマス発電株式会社(社長:山本 稔之、本社:青森県八戸市)が4月1日、営業運転を開始しました。事業主体の八戸バイオマス発電株式会社には当社のほか、住友林業株式会社(社長:市川 晃、本社:東京都千代田区)、住友大阪セメント株式会社(社長:関根 福一、本社:東京都千代田区)が出資し、年間発電量は約27,000世帯相当の年間使用電力量を見込んでおります。

同発電所は八戸港付近の工業用地に建設し、再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)^{※1}を利用した発電事業を行います。燃料の木質チップは、主に青森県三八・上北・下北地域の間伐材や周辺鉄道沿線の鉄道林などを地元関係者の協力を得ながら集荷するほか、一部パームヤシ殻も使用する予定で、みちのくバイオエナジー^{※2}から全量を調達いたします。主に林地未利用材を使用しエネルギー事業を実現します。

本事業により環境にやさしいエネルギーの創出が図られるとともに、燃料集荷地域の森林環境の整備を促進するなど林業振興にも貢献するほか、雇用の創出にも寄与します。

※1 再生可能エネルギー固定価格買取制度とは、再生可能エネルギー源(太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス)を用いて発電された電気を、国が定める固定価格で一定の期間電気事業者へ調達を義務付けた制度のこと。

※2 みちのくバイオエナジー(社長:八田 堅嗣 本社:青森県八戸市)とは、住友林業株100%出資の子会社で、燃料チップの生産および販売会社。

発電のイメージ図



八戸バイオマス発電会社 概要

| | |
|------|--|
| 所在地 | 青森県八戸市大字河原木字浜名谷地 76-370 |
| 資本金 | 300 百万円 |
| 出資比率 | 住友林業(株)52%、住友大阪セメント(株) 30% 東日本旅客鉄道(株) 18% |
| 事業内容 | 木質バイオマス発電による電気供給事業 |
| 使用燃料 | 林地未利用材、周辺鉄道林、パームヤシ殻等 (年間約 13 万トン) |
| 主要設備 | 流動層ボイラー、蒸気タービン発電機 |
| 発電規模 | 発電端出力:12.4MW |

再生可能エネルギー
～バイオマス・風力・太陽光発電・地熱～
JR東日本グループの取組み状況

【風力発電】

- ② JR秋田下浜風力発電所 (稼動中)
- ③ 由利大内ウィンドファーム
環境アセスメント実施中



② JR秋田下浜風力発電所



⑦ 秋田追分太陽電池発電所



④ 富岡復興メガソーラ・SAKURA

【地熱発電】

- ⑩ 大松倉山南部地域 地表調査実施

【木質バイオマス発電】

- ① 八戸バイオマス発電(株)
(出力：12.4MW 2018年4月運転開始)



八戸バイオマス発電所

【太陽光発電】

【稼動中】

- ④ 富岡復興メガソーラ・SAKURA (出力：30MW)
- ⑤ 京葉車両センター太陽電池発電所 (出力：1.0MW)
- ⑥ 内原第一・第二太陽電池発電所 (出力：3.3MW)
- ⑦ 秋田追分太陽電池発電所 (出力：1.3MW)
- ⑧ 秋田天王太陽電池発電所 (出力：1.8MW)
- ⑨ 秋田泉太陽電池発電所 (出力：1.3MW)

